

令和6年10月24日 指摘事項有

小野市議会議長 高坂純子様

令和6年11月5日 再提出

小野市議会議員 前田光教

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣、「第19回全国市議会議長会研究フォーラム」参加につき、下記のとおり報告いたします。

記

1 フォーラム実施日

令和6年10月9日（水）～ 令和6年10月10日（木）
（遠路の為8日前泊）

2 小野市議会派遣議員



前田昌宏（議員） 河島三奈（議員） 小林千津子（議員） 山本悟朗（議員） 前田光教（議員）

3 派遣場所

岩手県盛岡市内丸13-1 「トーサイクラシックホール岩手」（岩手県民会館）

4 研究フォーラム内容

【 第1日目 】 「 基調講演 」 & 「 パネルディスカッション 」

● 基調講演 「人口減少社会における地域の未来図」 菅儀偉氏（第99代内閣総理大臣）

基調講演は国会開期中のため中止となり、菅儀偉氏によるビデオメッセージ披露となる。

●厚生年金加入のお知らせ（アナウンス）

全国市議会議長会（事務総長）

→ 議員年金の経緯と状況説明

副会長「畑中優周議長」（釧路市議会）・会長「坊恭寿議長」（神戸市議会）

→ 意見書採択の依頼（全国70%の採択を目標）

●パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」

コーディネイター	井柳美紀（静岡大学人文社会科学部法学科教授）
パルリスト①	土山希美枝（法政大学法学部教授）
パネリスト②	越智大貴（一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事）
パネリスト③	渡辺嘉久（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）
パネリスト④	遠藤政幸（盛岡市議会議長）

◎静岡大学人文社会科学部 井柳美紀氏 「議長会による主権者教育の推進」

- 地方議会の課題として投票率の低下・無投票当選の増加・議員の年齢と構成など。
- 議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進する。
- 出前講座、模擬議会等、議会が主体的に行う主権者教育の取組に対する支援。

※平成27年の文科省通知（配布資料転記）

「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動について」

◎法政大学教授 土山希美枝氏 「誰がための主権者教育か」

- 市民と議会の間にあるもの、若者と社会の間にあるもの
 - 議会・議員は何をしているか？ 理解度の調査
 - 若者と社会の隔たり
 - 意思決定、作用に対する肯定感の弱さ
- 議会は主権者教育の「主体」か？
 - 議会は教育として何を伝えるか、誰が対象か？手法は教育に値する内容か？
- 議会と子ども・若者たち・教育機関との関係の中で「主権者教育という機能」
 - 高校生議会の取組みは広がるのか？ 学校は主権者教育に戸惑っているかも？
 - 議会の本来の機能は？ そこから見たときの「子ども・若者議会」の機能は？

議会は何をなすべきか？ どれほどの資源を用意するのか？

議会の本来の機能にとってどのような意味をもたせるのか？それぞれの現場で確認を！

◎一般社団法人代表理事 WONDER EDUCATION 代表理事 越智大貴氏

「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」

- 若者は、政治や社会をどう捉えているのか？
 - 18歳意識調査と Wonder Education の調査の比較
 - 政治に行かない理由は、政治に関心がないから？
- 学校現場における主権者教育の現状
 - 学校現場での主権者教育の内容と課題
 - なぜ学校現場に「リアルな政治」が入れないのか？
- 13年間の主権者教育の取組について
 - 学びあい、みんなで創る！ その「カギ」と「キーパーソン」

カギは「自分たちの行動で、国や社会を変えられる」感覚を持つこと。
キーパーソンは「若者」。。。

◎読売新聞東京本社 渡辺嘉久氏

「人口減少社会の未来」(学校・社会保障・財政・借金依存・インフラ維持・管理)

- 政治と繋がるとは？
 - 政治は未来
 - 政治と繋がる = 未来と繋がる 政治を考える = 未来を考える
 - 結果、自分の未来を創造する

政治を知らない私が投票して、世の中が変な方向にいつてはいけない、
だから選挙に行かない！・・・？
誰を選べば良いかわからないシステム、自分の未来を選ぶ選挙、
情報が変われば投票先は変わる・・・。

◎盛岡市議会議長 遠藤政幸氏 「盛岡市議会が取り組む主権者教育」

- 高校生議会の開催 (第1回目平成29年7月・年1回)
 - 高校生との直接交流 (市政の課題について意見交換)
- 大学に「おでかけ」 学生と意見交換 (3大学)

●地方議会の主権者教育について(討論)

○井柳美紀氏

→ 地方議会選挙では争点が見えてこない。学校の中立性との兼ね合いはどうか。

○土山希美枝氏

→ 議会は議論する場所なので話し合う機会が大切！

→ 何が正しいか？ 正しい答えをだけを探す事を求められて育っている

○遠藤政幸氏

→ 色々な考えを学ぶことが大事 変わった事実を実感させる事は大切！

→ 高校生議会のマニュアルを作って全国で

○越智大貴氏

→ 議論、合意形成、何かが変わる？ 変わるかも？ このプロセス体験が大事！

→ 選挙に行こう！ 感性での教育が重要！

[第2日目] 「 課題討議 」

●課題討議「主権者と教育の取組報告」

コーディネイター	河村 和 徳 (東北大学大学院情報科学研究科准教授)
事例報告者①	白鳥 敏 明 (伊那市議会前議長)
事例報告者②	諸 岡 覚 (四日市市議会議員) 第83代議長
事例報告者③	服部 香代 (山鹿市議会議長)

◎東北大学院情報科学研究准教授 河村和徳氏

→ 理想と現実、18歳の投票率は高いが、19歳になると低くなる。

→ 自宅生が多いところほど投票率が良い。両親の投票と同じ投票傾向。

→ 知識の提供だけでなく、実践の場の提供も必要。現実の主権者教育で感じる限界。

子どもたちにとっては議員と出会うだけでも意味がある！

◎伊那市議会前議長 白鳥敏明氏

→ 平成30年の市議会議員選挙で「無投票」

→ 6月に「魅力ある議会づくり検討会」を設置

→ 高校生の議会傍聴と意見交換会の取組(市内の全4高全対象)

→ 令和6年に高校生からの請願 結果採択で当局に要望！

◎四日市市議会議員 諸岡覚氏

- 議会報告会・シティーミーティングを見直し、各常任委員会が地域の高校・大学に出向き意見交換（ワイ！ワイ！GIKAI）
- 高校生と議員で選挙ポスター作成
- 高校生議会（よっかいち市議会だより・こども号発行）

◎山鹿市議会議長 服部香代氏

- シチズンシップ（citizenship）教室
（市議会を知る・議員の仕事を理解する・選挙の意義や投票の大切さを学ぶ）

なりたい職業やランキングベスト10入りを目指して！

●主権者教育の実践から見えた成果と課題

○白鳥敏明氏

- 高校生から様々な意見・提案が生まれてきた。
- 高校生から請願「子育て環境改善」！
- 保育園にアンケート調査を実施して分析の後請願！

○諸岡覚氏

- 色んな議員がいる事を高校生が知る。
- 個々と触れ圧ことが大切、個々と触れ合うことで意見もでる。

○服部香代氏

- 45分授業で民主主義を伝えるのは困難。
- 子どもたちは、強い意見が出ると、それに引っ張られてしまう。
- 議員の仕事は議員にしか語れない。
- 子どもたちは議員に会ったこと親に伝える。親の投票行動に繋がる。

●今後の活動についての提言

○白鳥敏明氏

- 中学校キャリアフェスに市議会として参加していく。

○諸岡覚氏

- 立候補体験や、公式の政治塾があっても。

○服部香代氏

- ワークショップ方式で教育を実施する等、継続して実施する事が大事。

5 所感

第19回となる全国市議会議長会研究フォーラムに参加し、全国的な取組のひとつを体感して参りました。この度の全体テーマは「主権者教育の新たな展開」と題し、パネルディスカッションでは「地方議会の課題と主権者教育」、翌日の課題討議（事例発表）では「主権者教育の取組報告」を掲げて開催されました。

2015年6月、改正公職選挙法が成立し、国政選挙としては2016年7月の参議院選挙から18歳選挙権が導入され、若者の政治的リテラシーや政治参加意識を育む必要があるとして、注目されているのが「主権者教育」とされています。

主権者教育は、国民として良識ある公正な判断力を身につけ、社会への参加意識を高めることを目的とした教育であり、その目的は、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成することと告げられています。

従来は「政治教育」「シチズンシップ citizenship（市民性）教育」「有権者教育」などと呼ばれていたようですが、近年では特に投票や議会等、政治に関連する教育を指して「主権者教育」という用語が用いられています。

主権者教育では、各年代に応じて「身近な問題から社会問題まで」を題材に、学校、選挙管理委員会、家庭や地域等の様々な主体で取り組むことが不可欠とされているようです。

そもそも、主権者は「国民」であり、18歳選挙権が導入されたからとて、主権者に変わりはなく、それらを教育することを理論建てしても、求める結果に至るのか少々疑問に感じています。

Hitorigoto ↓

主権者の政治参画は、権利か義務か？

要するに、誰が言ったか・・・「無関心から関心へ」では・・・。

今回の研究フォーラムでの事例も、戦略的ではあるものの結果は如何にと感じ、戦術としては結果を導き出せますかといった疑問もありました。

しかし、議会としては、政策に反映するために、学生や若者の意見を聴くことは大切であり、意義あるものとして有効的であり、結果として市民生活の向上に繋がれば主権者との協働であり、加えて、結果的に学生や若者の主権者意識を育むこととになると考えられるのは理解はしています。

Hitorigoto ↓

主権者への啓蒙・啓発、女性議会やウィメンズチャレンジ塾を展開してきた小野市、結果として女性の政治参画（女性議員の増）となり、一定の成果を得、初期の「主権者教育」・・・。次なる実行主権者としての果たすべき役割は・・・。

現在の主権者教育は、理屈っぽくて、単純なことを難しくし、複雑化させているように感じてしまうところがあります。また、特に地方では現在の公職選挙法が複雑で、若者の政治離れの要因としても考えられると感じています。

結論として、議会としては単に開かれた議会だけではなく、**信頼される議会組織**として、議員としては、地域の歴史観と新たなチャレンジ、不易流行のもとで**機能**を発揮することが主権者へのメッセージとなり、地方議会の、地方議員のできる主権者教育かと・・・。